

滋賀・鴨田遺跡

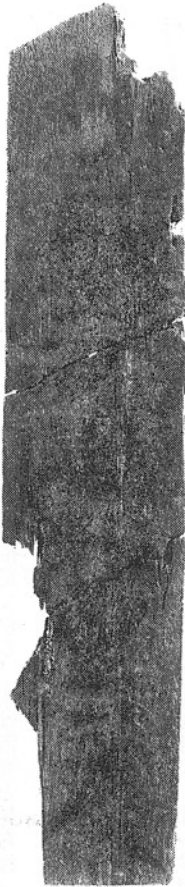
- 1 所在地 滋賀県長浜市大成亥町字東堂前
- 2 調査期間 一九九二年(平4)九月～十二月
- 3 発掘機関 滋賀県教育委員会・勉滋賀県文化財保護協会
- 4 調査担当者 吉田秀則・北村圭弘
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 一二世紀～一五世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

鴨田遺跡は姉川の形成した扇状地性沖積平野の扇端部やや外側に位置する。当地付近は建永元年(二二〇六)立荘の青蓮院門跡領坂田

新荘推定地にあたり、総持寺文書などで高野辺としてあらわれる、旧称高鍋の大辰巳町の故地伝承地に近接



(長 浜)



する。木簡は、長浜新川改修工事に伴う第四次調査において、J区の土坑状遺構から検出された。この遺構は復原径約一〇六cm、深さ約二八cmである。隣接地には「堂前神社旧跡」碑がある。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「(梵字) 長州住 三十三所巡礼聖三人」
宝徳四年

24×4×5 0.01

この木簡は西国三十三所巡礼札で、左脇に宝徳四年(一四五二)の年紀があり、現存するものとしては姫路市広峰神社の文安五年(一四四八)例について二番目に古い。また右脇には長州住(山口県)と多くの札に見られるように、巡礼者の出身地を示すが、中央の文言に巡礼聖と記される例はきわめて稀である。出土状況や破損状況等から、札は故意に三つに折られて破棄された可能性が高い。北西約一五kmの琵琶湖上には、三十番札所の竹生島宝厳寺が存する。

(北村圭弘)